

akane.

あかね

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

vol.44
2021 Summer

慢性腎臓病(CKD)に対する取り組み CKD医療の質向上委員会の発足



いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人あかね会

理事長あいさつ

医療法人あかね会 理事長

土谷 治子

前号の『akane vol.43 2020 Winter』の理事長あいさつは、新型コロナウイルス感染症が最近の一番の出来事であり、感染対策に日々追われていると書いておりました。

今回の『akane vol.44 2021 Summer』を編集している現在は、あかね会にとって試練の毎日が続いています。5月の連休明けから在宅部門の職員、透析クリニックの患者様、土谷総合病院の患者様と職員にCOVID-19陽性患者が判明。土谷総合病院ではその後も院内感染と考えられる患者様や、感染経路が不明な患者様が続き、現在も入院制限なども含めて感染対策に追われる日々が続いております。

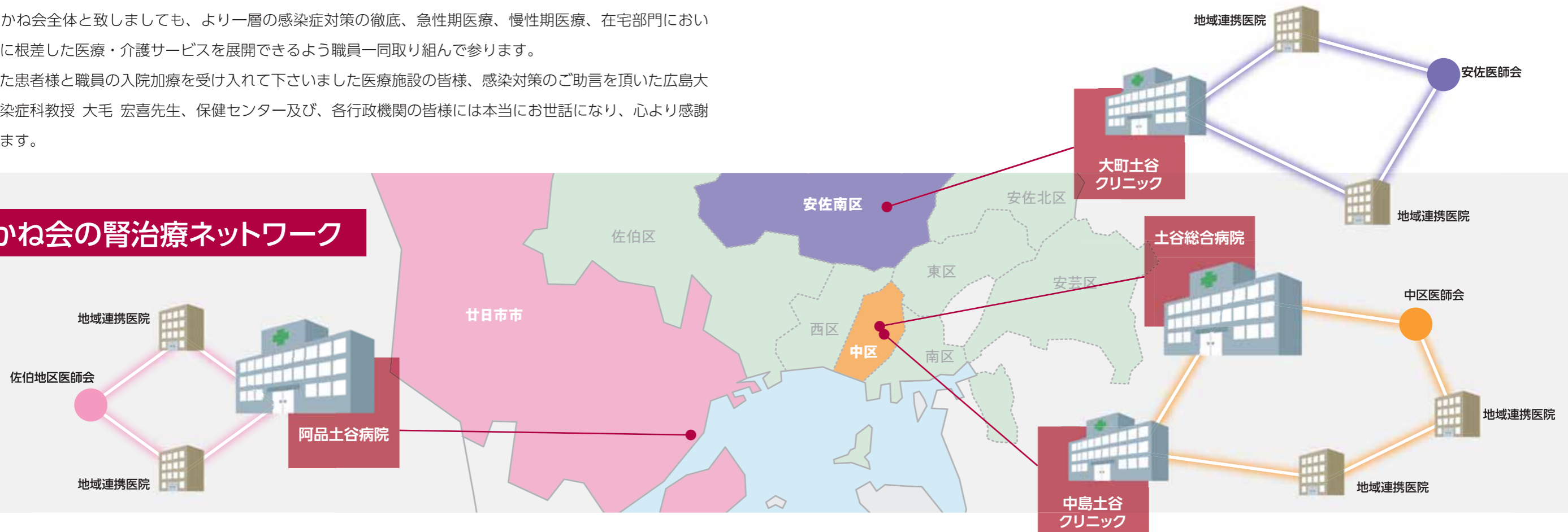
現在、土谷総合病院では院内感染を抑えるために診療業務の一部制限をしており、地域の先生からのご紹介、救急患者様もお断りせざるを得ないこともあり、ご迷惑をおかけ致しまして、大変申し訳なく存じます。一日も早く日常の診療体制に戻れるよう、外部機関との連携を図りながら感染収束に向けて、より一層の感染対策の徹底と感染者の治療に病院をあげて取り組んでいきたいと思っております。

今号では、医療法人あかね会の要でもあります、腎臓・透析部門について、最近の取り組みを紹介させていただきます。1967年（昭和42年）12月に当時の土谷病院で透析医療が始まり、約半世紀が経ちました。現在では末期腎不全として血液透析、腹膜透析だけでなく、保存期腎不全に対する治療及び、患者教育にも力を入れております。先生方と交流する機会もなかなか取れない状況が続いておりますが、当法人の現状を少しでも紙面でご紹介できればと考えております。

新型コロナウイルス感染症対策を続けながらの診療において、地域の先生方も大変な思いをされているかと存じます。あかね会全体と致しましても、より一層の感染症対策の徹底、急性期医療、慢性期医療、在宅部門において、地域に根差した医療・介護サービスを展開できるよう職員一同取り組んで参ります。

感染した患者様と職員の入院加療を受け入れて下さいました医療施設の皆様、感染対策のご助言を頂いた広島大学病院感染症科教授 大毛 宏喜先生、保健センター及び、各行政機関の皆様には本当にお世話になり、心より感謝申し上げます。

あかね会の腎治療ネットワーク



新しい技術で如何なる腎不全・臓器不全にも対応

土谷総合病院 副院長 腎疾患・透析療法部 川西 秀樹

如何なる腎不全・臓器不全にも対応するとの基本方針のもと、あかね会ではその時々新しい技術を導入しています。腎疾患治療と慢性腎不全症例の透析導入とその合併症の治療、急性腎不全治療が中心となり、外科医、腎臓内科医が連携して診療に当たっています。

早期腎疾患治療：検尿異常精査、さらに腎生検を行い、その結果に基づいた薬物療法を行ないます。

保存期腎不全（CKD）治療：薬物療法、食事療法、生活指導を基本とし末期腎不全への進行を抑えます。また腎臓病教室を開催し患者教育に力を入れています。特に透析予防診療チームの考え方の下、医療連携を積極的に活用しています。

末期腎不全治療：血液透析または腹膜透析を行っています。患者さんの病態、生活に合った療法選択を行います。更に、必要な患者さんには在宅血液透析という選択も積極的に行っています。また末期腎不全期より、腎移植治療の説明を行い関連施設に紹介させていただきます。

急性腎不全（AKI）治療：持続的血液浄化療法を主にICU治療を基本とします。そのため24時間治療可能な体制となっています。

透析血管外科：バスキュラーアクセス増設、経皮的血管形成術を行います。

下肢末梢動脈疾患：放射線科・血管外科・皮膚科と連携し積極的に透析患者下肢病変への治療を行っています。

連携医療：土谷総合病院では上記のCKD・AKI治療を主にしていますが、透析患者さんが安定後の維持透析療法は中島土谷クリニック/大町土谷クリニックにて加療します。また長期療養が必要な方は、阿品土谷病院に入院していただき加療させていただきます。

「CKD医療の質向上委員会」の発足について

中島土谷クリニック 院長 森石 みさき

慢性腎臓病（CKD）とは慢性にゆっくり進行するすべての腎臓疾患を指し、最終的には人工透析や腎移植が必要になる病気です。わが国では全人口の8分の1にあたる約1400万人が罹患していると言われています。慢性腎臓病の発症には高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病が関わります。また、慢性腎臓病が進行すると心疾患、脳血管疾患を合併しやすく、それぞれの疾患が相互に影響しあうことで、各疾患の生存率を低下させます。それゆえに、慢性腎臓病の治療においては腎臓だけでなく、すべての生活習慣病と治療連携し、生活環境を整える必要があります。

当院では、外来、入院ともに慢性腎臓病の患者さんが多くいらっしゃいます。この患者さん方により良い医療を提供するために、日々、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士、医療事務、社会福祉士が専門性を生かした連携・協働をしています。さらに腎疾患の知識や理解度を向上させ、患者さんへの理解を深めるための取り組みとして、あかね会では2020年1月に「CKD医療の質向上委員会」を立ち上げました。委員会では、あかね会のサテライトクリニックも含め多職種が参加しています。慢性腎疾患治療の現況報告、職種ごとの慢性腎臓病との関わりの発表と視聴、それらのフィードバックを通じた自己意識の向上から、結果としての、あかね会全体の慢性腎臓病治療の向上を目指しています。



大町土谷クリニックでの安佐地区CKD診療連携

大町土谷クリニック 院長 高橋 直子



大町土谷クリニックはアストラムライン・JR大町駅から徒歩数分の場所に位置し、3名の腎臓・透析専門医が、基幹病院である土谷総合病院と連携しながら、血液透析とともに保存期慢性腎臓病(CKD)の外来診療を行っています。安佐南区では唯一の血液透析施設であり、210台の透析装置を設置し、約390名の患者さんに血液透析やオンライン血液透析濾過、間歇補充型血液透析濾過などの治療を行っています。保存期CKD外来では、ひと月に約150名の患者さんを診療しています。

「安佐地区CKD連携の会」の発足

CKD診療では、かかりつけ医の先生方と専門医の十分な連携が必要であることから、2014年「安佐地区CKD連携の会」を立ち上げました。「かかりつけ医と専門医のお互いの顔が見える会」をコンセプトとし、連携強化を図ることでCKD診療の早期治療介入の基盤を構築することに努めています。

「栄養指導の支援体制」の構築

CKD診療において食事療法は極めて重要な位置を占めていますが、かかりつけ医の先生方は、「患者さん一人一人にかけられる診療時間が限られていて栄養指導まで手が回らない」、「栄養士を雇用するにもいろいろと考えなければならない」であろうと拝察し、栄養指導が不十分になりがちな面を解消する目的で、当院が栄養指導を代理で実施しています。

土谷総合病院の慢性腎臓病関連の教室について

土谷総合病院 3階南病棟 看護師長 渡部 恵理子
慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病療養指導士

腎臓は体の調子を整えるために重要な働きをする臓器です。一般的に知られているのは、体内で不要になった物質や水分を尿として体の外に捨てることですが、それ以外にも、血圧の調整や骨の再生、赤血球の産生など、様々な役割を担っています。

この腎臓の機能が低下した状態を慢性腎臓病と呼びます。慢性腎臓病は、進行すると体に様々な不調や合併症を引き起こします。慢性腎臓病の進行を遅らせて合併症の発症を予防するためには、慢性腎臓病を理解し、合併症の発症を予防するための知識が必要になります。

そこで、慢性腎臓病についての理解を深めていただくために、医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・理学療法士が講師を務める「慢性腎臓病教室」を開催しています。教室は6回シリーズで、①慢性腎臓病の基礎知識、②生活習慣と慢性腎臓病、③血圧と慢性腎臓病、④リハビリと慢性腎臓病、⑤心血管疾患と慢性腎臓病、⑥透析と慢性腎臓病をテーマに約1時間、講義形式で実施しています。

また、慢性腎臓病の進行を防ぐためには、生活習慣病の予防、薬物療法とともに、食事療法が重要になります。慢性腎臓病の食事療法の基本は、たんぱく質と塩分の制限、適切なエネルギーの確保です。また、カリウム摂取についても注意が必要です。

そこで、慢性腎臓病の食事療法についての理解を深めていただくために医師・看護師・管理栄養士が講師を務める「慢性腎臓病の食事教室」を開催しています。教室は6回シリーズで、①塩分の控え方、②タンパク質制限（基礎編）、③エネルギーのとり方、④カリウムの控え方、⑤タンパク質制限（上級編）、⑥献立の考え方を取り上げます。食事教室は、医師と管理栄養士が講義を担当します。そして、開催テーマに合わせた試食品を提供し、参加していただいた患者さんと管理栄養士、看護師が参加したグループワークを行っています。食事教室は長期間継続して参加される方が多く、シリーズ終了ごとにお渡ししている終了証が10枚を超えた方も数名いらっしゃいます。慢性腎臓病は長く付き合っていく疾患です。同じ疾患に向き合う仲間や、サポートする医療者と知り合える良い機会と評価していただいています。

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の一環として、「慢性腎臓病教室」「慢性腎臓病の食事教室」ともに今はお休みしていますが、今年中にインターネット環境で再開を目指しています。お会いできる日を楽しみにしています。

「CKD医療の質向上委員会」スタッフのご紹介

病気になったら、心配なのは身体のことだけではありません。お金、生活、家族のこと…たくさんの悩みが出てくると思います。慢性腎臓病患者さんの場合、食事や薬の管理、透析導入となった場合の通院方法等についての悩みも多く聞かれます。「何かサポートはないだろうか」、そんな時、社会福祉の専門職である医療ソーシャルワーカーがお話を聞き、活用できる社会資源の案内や手続きのサポート等、問題解決のお手伝いをさせていただきます。地域医療連携室には医療ソーシャルワーカーが在籍しております。患者様・ご家族の不安を少しでも取り除き、より安心して治療に取り組み、地域生活を送って頂けるよう支援いたします。いつでもご相談ください。



土谷総合病院
医療ソーシャルワーカー
福岡 紗季

中島土谷クリニック
管理栄養士
日本糖尿病療養指導士
腎臓病療養指導士
滝本 由美子



慢性腎臓病患者さんの“腎臓を守るために必要な食事療法”は、塩分制限・たんぱく質制限・適正なエネルギー確保が基本になります。そして、血液検査の結果や腎機能低下による症状に応じて、カリウム制限とリン制限が加わります。

医学の進歩と同様に、食事療法も少しずつ変化しています。2020年末に、管理栄養士のバイブルともいえる「日本食品標準成分表」が全面改訂された事を受けて、当法人でもこの機会に、これまで使用してきたオリジナルの栄養指導用資料を見直しています。新しいパンフレットでは、はじめて栄養指導を受ける患者さんにも理解していただけるように難しい言葉は避けて、食事療法をやってみようと思われるように改訂を進めています。たくさんの方の患者さんや調理を担当される方に見ていただき、活用していただければ嬉しく思います。

しかし、慢性腎臓病患者さんの食事療法は、腎臓が悪くなるもとになった病気、病気の進行状況、患者さんの年齢、嗜好、生活背景などによって異なるところもあるため、パンフレットを読んだだけでは理解が難しいと思います。管理栄養士は、100人の患者さんがいたら、100通りの指導方法で対応しています。そして、制限だけでなく「おいしく食べる」という食事の目的を忘れない指導を心がけています。

慢性腎臓病の食事療法を理解し、毎日の食生活の中で実践するのは簡単なことではありません。管理栄養士が身近な存在となり、食事療法を必要としている患者さんの思いに応えていけたらと願っています。

土谷総合病院
薬剤師
井上 智博



高齢者や慢性腎臓病患者さんは多くの薬を服用していることが多く、薬剤性の腎障害や腎機能低下による薬剤性の副作用が出現しやすい状態であると言われています。そのため、薬物療法の適正化に対する薬剤師の役割が大いに期待されています。

薬剤師が関わっている主なものとしては、

- ・ 腎臓病教室
- ・ 薬剤管理指導（病棟やお薬窓口での服薬指導など）
- ・ 処方箋へ腎機能指標の記載を行うことによる適正投与量確認
- ・ 医療連携（お薬手帳に腎機能の情報を記載することにより保険薬局と連携を図る）

などが挙げられます。

慢性腎臓病患者さんに対して最も重要なことは薬剤管理指導であると思います。慢性腎臓病特有の薬のコンプライアンスは低いといった報告もあり、服用する意義や服薬タイミングなど患者さんへの指導を十分に行う必要があります。病院や保険薬局での薬剤管理指導の積み重ねが大切となります。

土谷総合病院
理学療法士
水上 健太



慢性腎不全は筋量・筋力の低下や運動耐容能の低下が起きやすく、寝たきりや骨折リスクに加え、死亡リスクも高めてしまいます。しかし、運動習慣は慢性腎不全患者さんにとって生活機能や生命予後の改善をもたらします。有酸素運動、筋力増強訓練、柔軟体操といった運動療法には腎保護作用があり、透析や腎移植などの腎不全代替療法への移行を遅らせます。その他にも運動耐容能の改善、心機能の改善、筋肉量の減少の予防などにも効果があります。理学療法士は主となる疾患、生活環境などを踏まえ、慢性腎不全の重症度に合わせた運動負荷による安全な運動療法の実施、退院後も運動を維持できるような運動指導を心掛けています。

腎機能障害は糖尿病の三大合併症の内の一つです。

私たち日本糖尿病療養指導士は、入院病棟で腎不全患者さんの透析看護に携わりながら、糖尿病性腎症患者さんを対象とした「糖尿病腎疾患治療外来」を担当しています。また、慢性腎臓病療養指導看護師とともに「腎代替療法選択外来」で慢性腎不全患者さんの療法選択に係わっています。

腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）は、患者さんだけでなく、支えるご家族の人生を大きく左右します。早期腎症の時期から関わらせていただくことで、病気の進行を遅らせる方法や腎代替療法について、アットホームな雰囲気の中で、十分な時間をかけてお話しすることができます。お気軽にご相談ください。

土谷総合病院
看護師
日本糖尿病療養指導士
林 智奈美



土谷総合病院
看護師
日本糖尿病療養指導士
松本 進子





地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

内科(糖尿病) 久安医院

診療科目／内科

院長 大久保 雅通

当院は内科・糖尿病内科として糖尿病、甲状腺疾患を中心に診療を行っております。

血糖・ヘモグロビンA1c測定装置を導入し、迅速な診断を心がけています。

またPWV・頸動脈エコー・神経伝導速度測定等も行っており糖尿病合併症のチェックも積極的に行っています。

職員の配置状況としましては、これまで医師・看護師・管理栄養士の診療体制でしたが、今年度からさらなる診療体制の強化を行うために臨床検査技師を採用しチーム医療のレベルアップを図っています。

糖尿病は虚血性心疾患はもとより、心不全・不整脈の合併も多いことが知られています。さらに罹病期間が長くなると、末梢動脈疾患 (PAD) も見逃すわけにはいきません。また最近の糖尿病患者の高齢化により、糖尿病性腎臓病 (DKD) の管理に難渋する事も増えてきました。

これら困難な疾病に対して真摯な診療を心がけていきたいと考えております。



診療時間／月・火・水・金 午前：8:30～12:00(受付時間は11:40まで)

午後：14:00～18:00(受付時間は17:40まで)

木・土 8:30～12:30(受付時間は12:10まで)

休診日／日・祝日・年末年始(12月28日午後～1月4日まで)

夏期休業：8月13日～8月16日

住所／〒733-0033 広島市西区観音本町2丁目7-23

TEL／082-291-6645

FAX／082-291-6646

ホームページ／<https://www.hisayasuclinic.com>

NTT iタウンページデジタルリードでの掲載となっております。

医療法人あかね会

土谷総合病院 〒730-8655 広島市中区中島町3番30号 TEL:082-243-9191(代)

■阿品土谷病院 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号 TEL:0829-36-5050(代)

■大町土谷クリニック 〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号 TEL:082-877-5588(代)

■中島土谷クリニック 〒730-0811 広島市中区中島町6番1号 TEL:082-542-7272(代)

■介護老人保健施設シエスタ 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号 TEL:0829-36-2080(代)

■在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 TEL:082-544-2789 西広島 TEL:082-507-0855
大町 TEL:082-831-6651 出汐 TEL:082-250-1577
佐伯 TEL:082-925-0771

土谷ヘルパーステーション

光南 TEL:082-545-0311 西広島 TEL:082-507-0877
大町 TEL:082-831-6654 出汐 TEL:082-250-5080
佐伯 TEL:082-925-0770 戸坂 TEL:082-502-5205
可部 TEL:082-819-2250 矢野 TEL:082-820-4825
阿品 TEL:0829-20-3585

土谷居宅介護支援事業所

光南 TEL:082-504-3202 西広島 TEL:082-507-0866
大町 TEL:082-831-6653 出汐 TEL:082-250-3730
佐伯 TEL:082-925-1550 戸坂 TEL:082-502-5215
矢野 TEL:082-820-4835 阿品 TEL:0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 TEL:082-544-2885 大町 TEL:082-831-6600



スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。



土谷総合病院

検索



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4番11号

TEL:082-245-9274

<http://www.tsuchiya-hp.jp>

2021年7月発行